

Working styles ～専門看 護師&認定看護師の紹介編～

静和会には、専門看護師、認定看護師が複数在籍しています。日頃から地域での講話や各種学校での講話を行う皆さんですが、今後は定例会議の場を持ち法人内外での活躍の場を広げていきたいと考えているそうです。

今回は、そんな頼もしい私達の仲間を座談会シリーズの番外編としてご紹介します！

◆**専門看護師(Certified Nurse Specialist)**とは
看護師として5年以上の実践経験を持ち、看護系の大学院で修士課程を修了して必要な単位を取得した後に、認定審査に合格することで取得できる資格です。13の専門看護分野ごとに日本看護協会が認定しており、水準の高い看護を効率的に行うための技術と知識を深め、卓越した看護を実践できると認められた看護師です。

◆**認定看護師(Certified Nurse)**とは
看護師として5年以上の実践経験を持ち、日本看護協会が定める615時間以上の認定看護師教育を修め、認定審査に合格することで取得できる資格です。21の認定看護分野ごとに日本看護協会が認定しており、高度化し専門分化が進む医療の現場において、水準の高い看護を実践できると認められた看護師です。

■老人看護専門看護師 大久保 抄織 看護科長



【所属】 介護老人保健施設
エル・クオール平和
看護科
【採用】 平成9年4月16日
(静和記念病院で採用)
【取得】 平成26年11月23日
専門看護師に認定

【主な活動内容】

▶施設内では、認知症の困難事例や意思決定、ケアの方向性等、カンファレンスを通じて倫理的な課題も含め客観的に問題点を取り上げて、皆で考える機会を持てるように取り組んでいます。微力ですがチーム全体の底上げのお手伝い

が役割だと考えています。

▶法人内では昆布温泉病院を訪問し、講義とコンサルテーションをさせていただきました。今後も、法人内のスキルを持った方々の更なるケア向上のお手伝いできたらと思っています。

【専門看護師の取得にあたり】

▶私は大学院に2年間通う必要があったのですが、子供が3人いて一番下の子を保育園に預けていた事もあり正職員からパート雇用に切り替えていただきました。修士論文を提出する頃には週に1日位しか勤務できませんでしたが、多くの方の協力で認定を受ける事ができました。勤務を調整してくれた清水看護部長や協力してくれた他のスタッフには感謝の気持ちでいっぱいです。

【今後について】

▶静和会として地域の方々を巻き込んだ取り組みを企画していきたいと考えています。

■緩和ケア認定看護師 佐藤 歩さん



【所属】 訪問看護ステーション
「ことに」
【採用】 平成10年8月25日
(平成14年4月～正職員)
【取得】 平成24年6月24日
認定看護師に初回認定

【主な活動内容】

▶在宅ケア連絡会等で“終末期でも家でこんな風に過ごせます”といった内容の啓蒙活動を行っています。
▶法人内ではエル・クオール平和の「看取りケア委員会」に2か月に1回参加しています。看取りの振り返りや家族との関わり、また“その人らしい最期”をイメージするために利用者様の背景を知るといった事を提案しています。

【認定看護師の取得にあたり】

▶元々、訪問看護ステーション「ことに」は看取りに力を入れていましたが、主治医によっては看取りに慣れていない先生もいらっしゃり、症状の緩和や家族のケア等、もっと自分達にでき

る事はないかと考え、知識を持って提案していくために資格を取得しようと思いました。

▶当時、認定看護師の資格を取りに行ったのは私が最初だったと思います。休職させていただきましたが、その間の生活の支援を所長が法人に交渉してくれ、サポートを受ける事ができました。柳谷所長、川上理事長のお陰で勉強に専念する事ができたと思います。

【今後について】

▶まだまだ「終末期の方是对応できない」という訪問看護ステーションが多い状況です。お元気な頃から関わっている訪問看護が最期まで関わる事ができ、利用者が安心して身を委ねられるよう、訪問看護の質の向上に寄与したいと考えています。

■認知症看護認定看護師 泉 玄太さん



【所属】 介護老人保健施設
エル・クオール平和
看護科
【採用】 平成28年10月1日
【取得】 平成24年6月24日
認定看護師に初回認定

【就職の動機】

▶高齢者の権利擁護、意思表示の支援、認知症の各ステージにおける症状の緩和、アセスメントの重要性やケアの体制作り等が自分の役割ですが、前職は病院でしたので、やはり治療が主になっていました。札幌への転居を機に、生活に根差したケアが出来ると思い老健への転職を決めました。

▶実は（ご本人に黙っていましたが）エル・クオール平和に応募したのは、ホームページで老人看護専門看護師の大久保科長が勤務してい

る事を知ったからでした。

【主な活動内容】

▶施設内の認知症ケア向上委員会の一員として、認知症の利用者ご本人はこんな事に困っている、スタッフがどんな関わりをしていけば良いのか、ケアのあり方等を一緒に検討しています。

■緩和ケア認定看護師 佐藤 雪絵さん



【所属】 静和記念病院 5階病棟
【採用】 平成24年4月1日
【取得】 平成29年7月14日
認定看護師に初回認定

【主な活動内容】

▶緩和ケア認定看護師としての活動日を週1日頂いたので、全病棟と外来を回り、情報収集とスタッフのサポートを実施しています。若い看護師は患者さんに拒否されることを恐れ、必要な情報を聞けないこともあります。そんな時は通常のケアを実施しながら“話したくなるのを待つ”ことで、“話してもらえ”と、患者さんとの接し方をアドバイスすることが多いです。

▶静和記念病院では、多職種による緩和ケアチームを立ち上げる予定です。これから勉強会等を通して、多くのスタッフに緩和ケアをもっと知ってもらいたいと考えています。

【認定看護師の取得にあたり】

▶中学生と小学生の子供を持つ親として、家を長期間離れることに迷いがありました。しかし緩和ケアを学びたいという強い思いと、快く理解してくれた家族、職場の仲間の声援が背中を押してくれました。

エル・クオール平和では、看取りケアに対して当初は怖いと感じる職員も多かったそうですが、佐藤認定看護師が委員会に参加してくれるようになり徐々に自信が持てるようになっていったそうです。

昆布温泉病院では、大久保専門看護師の認知症研修を受け「相手を理解する心を持って日々頑張ろうと思った」とのアンケート結果をいただいています。

皆さんの活動は法人内に良い作用を生み出しています。今後も法人内外での活躍を大いに期待しています！

『趣味』 ~仕事への活力~

医療・福祉・保健と各分野において、それぞれが持っている知識や技術、技能を生かし、現在630名程の方が法人内で活躍しています。その中で、今回は4名の方にスポットを当て、普段仕事で見せる顔とは別のある魅力的な一面を教えてくださいました。

至福のひと時を求めて

エル・クォール平和 事務長 畠山和久

大好きな食べ物を口いっぱい頬張って風味・食感などを堪能することは至上の喜びである。そんな私は、兎にも角にも麺が大好きである。中でもラーメンには目が無い。趣味というほどのものではないかもしれないが、外食の機会に恵まれれば必ずと言ってよいほどラーメン屋に足が向いている。たとえストレスが溜まっていたとしても、前に丼が据え置かれたその瞬間から何もかも忘れ、至福のひと時が訪れる。ただ、食べ終わった瞬間にもう一度食べたいくなる麺に巡り合うことは中々無いので、SNSなどで話題になっているお店や老舗、新店を巡っては、そんな一杯に出会えることを期待している。そんな道楽も20年近く続けており、もはや生活の一部となっている。さて、今日はどこの暖簾を潜ろうか。



念願のロードバイク

静和記念病院 リハビリテーション科理学療法士 佐々木翔平

昨冬、念願のロードバイクを購入し、雪解けを待って乗り始めました。風を切り遠くまで何も考えずに黙々と走っていると、スカッと気分転換できるだけでなく、体力がつき以前よりも体調が良くなりました。また、ペース配分しながら走るといった経験から、忙しい時にも焦って混乱することなく自分の仕事を粛々と進められるようになったと実感しています。

初めてのバイクですが、ギア数など検討しレースに対応可能な最低限のスペックのものを選択。最近では新たに、室内練習用のローラー台を入手し夜間や雨天・冬期間もトレーニングをしています。レースでは軽量な方が有利な為、ダイエットで身体を絞込み、来年初心者向けのロードレースに出場することを目標に頑張っています。



ウルトラマラソンの世界

平和病院 事務課長 入屋静男

北海道に“サロマ湖100kmウルトラマラソン”というレースがあります。コースは湧別町をスタート、サロマ湖畔に沿って走り常呂町までの100kmです。

フルマラソンの約2.5倍の距離なので、42.195kmは単なる通過点であり、ここからウルトラマラソンの世界になります。この時点で疲れてはまず完走は不可能ですので、ペース配分のとても重要なレースになります。

80kmからの約20kmの折り返しコースは左右にサロマ湖とオホーツク海を望むワッカ原生花園の中を走る最高のビューポイントです。但し、景色を楽しむ心の余裕があればですが…

私は毎年このレースに出場し、今年18回目の完走を果たしました。来年も遥か彼方のフィニッシュラインを越えたいと思っています。（現在、右脚疲労骨折の治療中ですが…）



スノーボードを通して

西区第1地域包括支援センター 事務課長 菊池健一

平成6年に、友人から格安で板を譲り受けた事をきっかけに始めました。当時は滑走禁止のグレンデが多く肩身の狭い思いをしました。ストレートジャンプに魅了され、怪我を覚悟で挑んだ結果、バックフリップ（後方一回転）に失敗して胸椎圧迫骨折で1ヶ月間入院となったこともあり。この時の不甲斐ない自分が悔しすぎて、今日まで続けています。35歳の時にも再度骨折していますが、体をコルセットで固定して道外出張していました。

怪我をしてもやめられないのは、グレンデを滑走している時の爽快感と仲間との楽しい時間がストレス発散になり、自分をリセットできるからです。

現在46歳ですが、50歳までにJSBAスノーボード技術認定を取得し、定年後はインストラクターとしてたくさんの子供たちにスノーボードの楽しさを伝えていきたいと考えています。



4名とも、日頃の疲れをリフレッシュできる素敵な趣味をお持ちでした！本当に魅力溢れる笑顔の写真もたくさん提供していただき、ありがとうございました。法人内には、素敵な趣味をお持ちの方がまだまだたくさんいらっしゃいます。明日も頑張ろう！と思える「趣味」が、法人内の笑顔に繋がっているのかもしれないね。

親睦会の取り組み

静和会には施設の枠を超え、職員間の親睦を図り相互協力の精神を育む「親睦会」という組織があります。各施設から選出された親睦会役員には会計管理や慶弔の対応、行事の開催など様々な役割があります。

中でも、会員の親睦・融和を深めるための旅行会、忘年会、ジンギスカン会は、重要な行事で、役員としての腕の見せどころとなっています。

今回は、平成29年度 親睦会 会長である静和記念病院の富田雅和さんからお話を伺うとともに、年末に開催された忘年会の役員打ち合わせと開催当日を取材させていただきました。

■ 親睦会 会長 紹介

29年度会長の富田さんは静和記念病院 手術室に勤務する主任看護師です。アイデアを駆使して、大所帯の親睦会行事を運営してくれています。そんな会長から「親睦会は初夏のジンギスカン会、秋の親楓会、年末の忘年会と年間を通し行事を開催し、職員の親睦を深めることを最大の目的としています。私たちの取り組みが、皆様の親睦に少しでも貢献出来たのであれば大変嬉しく思います。もうすぐ新しい体制で運営がスタートしますが、引き続きご協力をお願い致します」と、お話をいただきました。



平成29年度 親睦会
会長 富田雅和さん

■ 親睦会役員打ち合わせ

取材日は忘年会開催の3日前ということもあり役割分担・進行チェック・参加者の最終確認など話し合いは大詰めを迎えていました。どのように進めると喜んでいただけるかなど「参加者目線」で検討されていたことが大変印象に残りました。



「楽しく！楽しく！」と、熱の入った打ち合せ

■ 忘年会当日の様子

平成29年12月9日 札幌グランドホテルにて、330名を超える職員が集まり忘年会が開催されました。普段のユニホーム姿とは違い、お洒落をした職員が集い華やかなひと時でした。



静和会 忘年会会場 全体風景

お子さんへのプレゼントをはじめ、余興や豪華景品を多数用意した大抽選会など、役員の奮闘のおかげで、食事は更に美味しく、お酒は更に進み、会話が滑らかになり、楽しい時間を共有することで職員間の親睦を深めることができました。



平成29年度 親睦会 役員の方々

感謝を込めて 永年勤続表彰



忘年会での永年勤続表彰式の様子

静和記念病院

臨床工学技士 安藤 貴司 科長（勤続20年）



入社して20年と考えると感慨もひとしおです。いまの私があるのも周りで支えてくれた家族や友人、仕事の仲間たち、そして高気圧酸素治療や血液浄化療法、各医用機器などを通して関わらせていただいた患者様のおかげと感謝しております。

エル・クオール平和

看護師 清水 智子 看護・介護部長（勤続20年）



20年前生まれたての若い木だったエル・クオール平和も、皆の力で平和の地に大きく根ざし、素敵な木に成長しました。さらに沢山の花を咲かせ、質の高い実がなるよう精進して参ります。共に成長させていただいた事に感謝致します。

静和記念病院

診療放射線技師 楠野 敬次さん（勤続20年）



勤続20年が経過しました。当初から考えると医療は大きく進歩しており、知人と解析の改善等を話し合う日々を送っています。現在はDWIBS（最近注目されている、MRIを用いてがんの分布をみる全身検査法）の撮像について研究中です。

エル・クオール平和

作業療法士 乙坂 道子 科長（勤続20年）



あっという間の20年！この20年はエル・クオール平和の開設準備室時に産んだ子育ての年月でもあります。いまの私は、成人式を迎える子供とエル・クオール平和によって成長させていたできました。更なる前進を目指し努力していきたいと思っております！

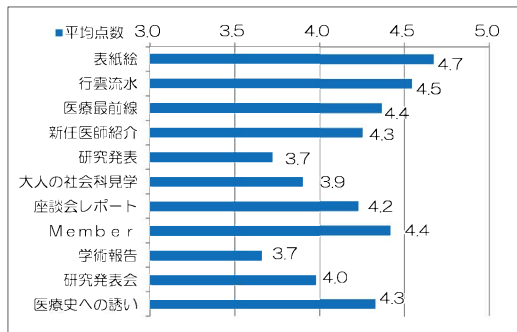
AXIS4号 アンケート結果報告

より多くの皆さまに楽しく見てもらえる広報誌を目指し、毎月アンケート調査を実施しております。今回はAXIS 4号の各記事評価の報告と、たくさんのご意見を頂戴し最高得点を獲得しました表紙絵の作者 阿部 俊明 様の作品を紹介させていただきます。

■ 各記事の評価 (平均点数)

今回は79名の方からご意見をいただきました。表紙に掲載されている『行雲流水』は、「仕事に対する心構えを考える言葉であった。気付きを得られました」と、いつも好評です。

各施設の新たな役割についた職員を掲載した『member』には、「写真の笑顔がとてもいい。笑顔がまぶしい。顔が見えてとてもいい」など様々な意見をいただきました。



評価は各テーマに1～5点（5点が最高得点）の範囲で採点し、その平均点を表示しました。

ダイナミックに描かれたひまわりはどなたにも深く印象に残り大好評でした。

表紙絵に寄せられた意見

- ・リアリティのあるひまわりでインパクトがありました。
- ・力強い中に繊細なタッチで描かれており素晴らしいです。
- ・阿部さんの絵と文字は、元気で良いと思います。
- ・詩の言葉に「うん、うん」と、うなずいて読んでいます。
- ・いつも素敵ですね。
- ・表紙絵は会話のきっかけになるので助かっています。
- ・色彩、絵から感じられる力強さが表紙にぴったりですね。
- ・夏らしくとても良いです。
- ・どなたが描いたのですか？ 気になります。
- ・「またお逢いできましたね」と言う言葉は素敵ですね。
- ・私にはかけないのですか？ と思います。
- ・季節に相応しく、また、インパクトがあります。
- ・とても素敵なお絵でした。

AXIS 4号 アンケートより



平成29年8月発行 AXIS 4号

阿部 俊明 様 詩画



2001年2月 榎



2008年10月 アジサイ



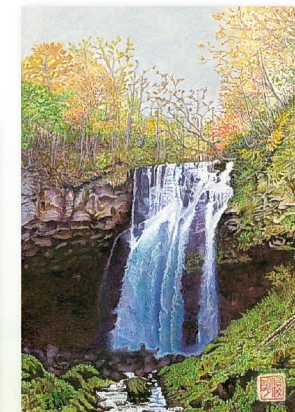
2011年12月 サクラマス



2014年5月 琉金



2004年4月 サフィニア



2008年11月 アシリハツの滝

作者紹介

1948年北海道中標津生まれ。地元で鮮魚店を営んでいた。95年4月、自動車事故により、「頸髄損傷両上下肢機能全廃」と診断され、首から下の身体機能を失った。この事故によって1年8か月の入院生活を余儀なくされる。口からの言葉だけでは意思を伝えきれないもどかしさをきっかけに筆をくわえ始め、その後、身近にあった花などを書くようになった。97年6月、中標津町で初めての展覧会を開く。以降、北海道内外で毎年数多くの詩画展を開いている。



阿部 俊明 様

いざな
医療史への誘い

第3話 抗生物質誕生秘話

静和会 理事長 川上 雅人

【第1と第2の偶然】

前回、抗生物質ペニシリンは、第1の偶然：ブドウ球菌を培養していたシャーレに偶然青カビが発生していた。第2の偶然：発生した青カビ周囲のブドウ球菌のコロニーが融解し、死滅している事に偶然気づいた等、このような偶然が重なり、世に出た薬であることをお話した。

【次なる偶然】

今回は、更なる偶然と運命の皮肉について語りたいと思う。当初、 Fleming は困難の中、青カビの培養液から成分を抽出し、この生成液を「カビジュース」と呼び、このカビの俗名より「ペニシリン」と名付け、1929年英国の学会誌にその成果を発表した。ペニシリンはブドウ球菌や連鎖球菌等のグラム陽性菌由来の菌には有効だったが、大腸菌等のグラム陰性菌由来の菌には、さしたる効果が無く特効薬を発見したと思っていた Fleming の希望は薄れていき、また青カビからの抽出、精製の困難さや性質の不安定さ劣化の早さ等、生産には不適であり、役に立つ消毒薬や実験道具に過ぎないものとして埋もれていった。

【更に偶然は続く】

第3の偶然：その12年後、オーストラリア出身のハワード・フローリーとナチスの迫害を逃れイングランドに移住していたエルンスト・チェインはオックスフォード大学病理教室で、抗菌物質の探索中に偶然にも埋もれていた Fleming の論文を見出した。彼らはペニシリンの有望な抗菌効果を確認したが、生産の困難さに気づくのに時間はかからなかった。



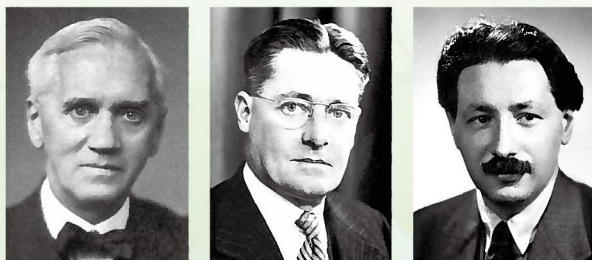
ノルマンディー上陸作戦は、第二次世界大戦中に連合軍が西ヨーロッパで起こした大規模な侵攻作戦

折しも、第2次世界大戦が始まっており、英国での研究継続が危うくなってきた彼らは、一縷の望みを持って米国に渡る。戦争等による火傷や銃創の感染症のため多くの命を失っていた米国陸軍を中心とした資本家たちと連携し治験を開始し、英国の権威あるジャーナル「ランセット」に感染症患者への治療効果が発表された。その有効性と将来性に着目した各製薬会社等の支援を受け、ペニシリンの抽出、精製、安定性、抗菌性に飛躍的な改善がなされた。瞬く間に大規模な大量生産が始まり、1944年にはノルマンディー上陸作戦部隊など、戦場において使用され、感染症による兵士の死亡を劇的に減少させた。戦争終焉までに何十万人もの人々を感染症による死から救った功績により終戦の年の1945年に3名はノーベル生理学医学賞を受賞した。

【偶然と、運命と、不思議さ】

第4の偶然とは、人々を感染症から救うために生まれた物質だが、一旦人々から忘れ去られ再発見され、戦争という極限の状況下において究極の必要性から抽出物をはじめとした幾多の困難を乗り越え大量生産に成功し、この奇跡の薬が歴史の表舞台に登場した。様々な偶然が重なり合ったとはいえ、その運命の皮肉さ、不思議さに思う事もまた大きい。

最後にノーベル賞を受賞した際の Fleming の言葉を引用して、今回のコラムを終わりたい。「私がペニシリンを作り出したのではない。自然が作り出したので、私は偶然それを発見したに過ぎない」1953年73歳で世を去った Fleming はロンドンのセントポール地下聖堂で静かに眠っている。



🇬🇧 Fleming 🇺🇸 Florey 🇬🇧 Chain

1945年 ノーベル生理学・医学賞 受賞
ペニシリンの発見、および種々の伝染病に対するその治療効果の発見

編集後記

今回はAXIS 4号のアンケート結果を掲載しました(18ページ)。

「他職種の仕事内容を知ることができた」「病院施設以外の記事があっても良い」「ページ校正を改善した方が読みやすい」「記事内容に興味を持てなかった」等様々な意見をいただき、作成時の参考とさせていただきます。より良い広報誌を目指していますので、忌憚のないご意見をお待ちしております！

AXIS編集委員会